

1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年 3月 15日

【評価実施概要】

事業所番号	1272201086
法人名	NPO法人 ライフサポート永楽台
事業所名	グループホーム そよ風SUN
所在地	千葉県柏市永楽台3-4-2 (電話) 04-7167-8783

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	2008/3/15

【情報提供票より】(20年 2月 29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 11月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	16 人	常勤 5人, 非常勤 11人, 常勤換算 8.3人	

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,300 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	有() 円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○(有) 300,000 ~ 500,000円)	有りの場合 償却の有無	○有) / 無
食材料費	朝食	380 円	昼食 580 円
	夕食	850 円	おやつ 190 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月 29日現在)

利用者人数	7 名	男性	2 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79.5 歳	最低 68 歳	最高	90 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柏厚生総合病院、井上医院
---------	--------------

株式会社 日本ビジネスシステム

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街の中に「グループホームそよ風Sun」がある。民家を改修した施設で、手すりやテーブル等を事務長が手作りで設置しており、温か味のある環境作りがなされている。リビング、居室等にパネルヒーターや扇風機を設置し、適切な空調管理がなされている。カラオケ機が設置されていたり、ボランティア慰問が多い等、入居者への楽しみ、気晴らしの支援がなされている。人材配置が厚く、離職も無い為、様々なサービスの提供と入居者が安心できる生活配慮がなされている。地域住民や地域のグループホームとの交流が盛んに行われていると共に、定期的な外出会・行事が企画・実施しており入居者の生き生きとした生活を支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価にて改善を指摘された項目においては、職員で検討し、迅速な対応を行っている。今回の評価においても、評価結果を職員へ周知し、検討の上、対応しようと考えている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を職員全員に周知しており、自己評価においては、職員全員で検討の上、作成を行っている。評価の結果においては、職員全員に周知をし、検討の上、迅速な対応を考えている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	柏市職員、町内会顧問、町内会会長、民生委員、近隣商店、地域住民、職員、入居者家族を構成員とし、4ヶ月に1回運営推進会議が開催されている。会議では主に、入居者の状況や行事計画等の報告が行われ、施設理解の促進を図っている。また、ボランティア慰問の相談や意見交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や手紙にて入居者の状況や金銭管理等の報告を行っている。また、日々の生活状況に変化があった場合や受診があった場合は随時家族に報告をしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩の際は、地域の方と挨拶を交わす関係作りがなされており、ご好意でおすそ分けを頂く事もある。職員が地域の住民であり、事務長は町内会の会長代理を務めている。地域の方とお茶を一緒に飲むこともあり、気軽に訪れやすい環境作りがなされている。また、バーベキュー大会やフランダース等の行事にて、地域の方々やボランティアとの交流を行っている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境」「安心と尊厳を守り、快適な共同生活」「健康な暮らし」を主眼とした独自の理念を掲げ、利用者目線のサービスの実践に向け取り組んでいる。		日々のサービスにおいて、地域交流の機会を多く持ち、入居者が地域と触れ合いながら生活をしているが、理念に地域密着型サービスの役割を目指した内容を付加する事で、より地域との関わりを意識したサービスの提供を望みます。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を職員全員に配布していると共に、施設内に掲示している。また、定期的にミーティング内で確認を行っており、理念に基づくサービスの実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の際は、地域の方と挨拶を交わす関係作りがなされており、ご好意でおすそ分けを頂く事もある。職員が地域の住民であり、事務長は町内会の会長代理を務めている。地域の方とお茶を一緒に飲むこともあり、気軽に訪れやすい環境作りがなされている。また、パーベキュー大会やフランドンス等の行事にて、地域の方々やボランティアとの交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を職員全員に周知しており、自己評価においては、職員全員で検討の上、作成を行っている。評価の結果においては、職員全員に周知し、検討の上、迅速な対応を考えている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	柏市職員、町内会顧問、町内会会長、民生委員、近隣商店、地域住民、職員、入居者家族を構成員とし、4ヶ月に1回運営推進会議が開催されている。会議では主に、入居者の状況や行事計画等の報告が行われ、施設理解の促進を図っている。また、ボランティア慰問の相談や意見交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域のグループホーム連絡会の理事を務めており、連絡会を通じて市の担当者との積極的な連携を図っている。事業運営に関する相談や研修会等の実施を通じて、市との信頼関係を築き、協同でサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や手紙にて入居者の状況や金銭管理等の報告を行っている。また、日々の生活状況に変化があった場合や受診があった場合は随時家族に報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口を設置していると共に、面会時等随時、意見・要望等の確認を行っている。挙げた意見等に対して適切な対応を図っている。また、入居者・家族のみならず、退所した入居者・家族にも意見を聞き、業務の改善やサービスの向上に繋げている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在、常勤職員の退職は無く、人材は安定している。入退職における入居者のダメージを理解し、馴染みのボランティアの方を職員に採用する等工夫をしている。入職後は、入居者に紹介、挨拶をし、施設の教育計画に基づきながら管理者と共同で業務を行いながら入居者と馴染んでいく体制が図られている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修においては、研修案内を掲示すると共に、参加を呼びかけている。研修参加後は資料を職員全員に配布すると共に、ミーティングで報告を行い、情報の共有に努めている。地域のグループホーム連絡会では定期的に研修会が行われ、積極的に参加し、職員の知識・技術の向上を図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会にて、スタッフ交流会、合同行事、研修会が行われ、積極的な参加をしており、情報交換や同業者との交流を図っている。また、他のグループホームと相互に行き来する機会を設け、優れた点を業務に取り入れる等、業務の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学を随時受け付けていると共に、希望があれば体験入居が可能となっており、施設の雰囲気に触れながら入居を決める事ができる。入居前の面談や体験入居を通じて、入居者の意向や希望を家族から確認している。入居後は、会話から本人の希望、意向等を確認し、信頼関係を築きながら馴染んで頂く様に配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の希望や能力に応じて生活活動を共同で行っている。日頃から職員は入居者を尊敬し、知識や人生経験を学んでいる共に、相互に支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前の面接等を通じて、生活状況や意向の把握に努めている。また、入居後は日々の生活の中において本人の意向や希望を確認し、職員への周知を図っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画においては、職員間で話し合い、計画作成担当者と共に作成を行っている。また、家族と計画作成担当者が直接話し合いを行い、意向や希望を反映した介護計画の作成に取り組んでいる。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回、介護計画の見直しを行っていると共に、生活状況に変化があった場合、見直しが必要と判断された場合には、その都度見直しを行っている。見直しにおいては、職員間の話し合いで意見・アイデアを集め、計画作成担当者が介護計画の作成を行っている。また、家族の意見・要望を反映した介護計画の作成に取り組んでいる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域のグループホームとの交流が盛んに行われ、コンサート鑑賞や梅拾い、お花見等の外出会が行われ、入居者、家族、職員の交流が図られている。入居者の入院時には、職員がお見舞いに行き、医師と情報交換をし、できるだけ早い退院を支援している。また、行きつけの美容院や数時間の一時帰宅等希望に応じた外出を支援しており、入居者のニーズに応えたサービスを提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外にも、希望の掛かりつけ医への受診が可能となっており、通院は職員が対応している。受診状況においては、その都度家族に報告を行っていると共に、状況に応じて医師と家族が直接連絡を取れるように支援している。定期的な往診が実施されており、日々の健康管理においては適切に行われている。また、週3回の訪問看護が実施されており、日曜にも訪問がある為、家族が健康に関しての相談を直接できるような体制が図られている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の看取りを実施しており、同意書に方針を明記し、家族に説明の上、同意を得ている。重度化や終末期においては、協力病院や家族と相談、連絡をしながら本人の希望、意向にできるだけ沿った終末期を迎えらるよう支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報については、所定の場所にて管理し、個人情報保護に努めている。また、入居者に対しては、接遇マナーを徹底し、尊厳を尊重した言葉遣い、対応を心掛けていくと共に、トイレ、入浴時のプライバシーの重要性を意識し、職員に配慮するよう教育を行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課を定めているが、一人ひとりのペース、要望を優先し、自由な生活を支援している。要望を言い出せない入居者に対しては、さりげない会話の中から要望を確認し、把握している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付け等は希望に応じて共同で行っている。献立においては、ボランティアの栄養士が作成している。定期的な外食会を企画・実施していると共に、行事等の特別な日には、普段と違う食事提供をする等、入居者の食に対する楽しみを支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回入浴を実施している。また、季節や希望に応じて清拭やシャワー浴を実施していると共に、看護師が訪問した時は、足浴を実施し入居者の清潔保持に努めている。入浴拒否に対しては、時間の変更や声掛け等の対応をし入浴してもらえよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事等の生活活動においては、能力に応じて共同で行っている。希望に応じてドライブや買い物等の外出を支援していると共に、カラオケ、塗り絵、俳句等の趣味・特技を活かしたレクリエーションが行われている。また、ボランティアの慰問が多く、外部交流も盛んに行われており、入居者の楽しみ、気晴らしを支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月2回、地域の神社へ参拝をしに行っていると共に、日々、近所のスーパーへ食材の買い物や水汲みを日課にしている。定期的な外出会を企画・実施している。また、日常の中で入居者からの希望に応じてドライブや買い物等に出掛け、戸外での楽しみを支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関においては、日中の施錠は行わず、入居者の自由な生活を支援している。一部の居室のみプライバシー保護の為、鍵を設置している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時、緊急時の対応・手順マニュアルを作成し、職員への周知を行っている。定期的に消防署の立ち入り検査が実施されていると共に、避難訓練・避難経路の確認が行われている。また、非常時の持ち出し袋を用意し、災害時の備えがなされている。近隣住民には日頃の声掛けの中で災害時の協力を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ボランティアの栄養士により栄養バランスの取れた献立が作成されており、嗜好や能力に合わせた食事提供がなされている。食事・水分摂取量がきちんと記録されており、摂取量が不足している場合には、無理な摂取は行わず、その都度柔軟に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の常時点灯すべき灯り等のスイッチは入居者の目に触れないよう、高い位置に設置されている。リビングにはカラオケ設備があり入居者が楽しめるようになっている。また、玄関やリビング、廊下にパネルヒーターや扇風機が設置され適切な空調管理を行っている。ウッドデッキは日当たりが良く、ひなたぼっこやお茶のみができるスペースとなっている。段差には、滑り止めテープや目印が貼られ転倒を防いでいる。階段の手前には、呼び鈴を設置し、入居者が階段を降りる時の安全面に配慮している。また、ガスは一切使わず、IHコンロやエアコン、パネルヒーターを使用し、日常の安全面においても配慮している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望により馴染みの物を自由に持ち込む事が可能であり、居心地良く生活できるよう配慮している。居室内に物干し竿が設置され、個人の洗濯物を干せるようになっている。全居室にエアコン、パネルヒーターが設置され適切な空調管理がなされている。居室の入り口にカーテンを設置し、プライバシーの保護に配慮していると共に、一部の居室に赤外線センサーを設置し、入居者の安全を管理している。		